



みなみ風

学校教育目標 人間力を高め、未来にはばたく児童生徒の育成

合言葉

私たちの最上位目標は、子どもの幸せ

学園日より

令和4年3月14日 第37号 みなみ学園義務教育学校

3/8 感動と涙の「9年生を送る会」



生徒総会や部活動壮行会、みなみスポーツフェスティバルやみなみフェスティバルなどでの9年生の姿を、尊敬と憧れの眼差しで見つめてきた下級生。お世話になった9年生に感謝の気持ちを伝えようと、各学年でそれぞれ趣向を凝らした発表を行いました。前期課程は、2月18日までオンライン授業だったこともあり、短い準備期間になりましたが、感謝の気持ちを込めて、ダンスや替え歌、9年生の思い出を綴った動画、突撃インタビュー、合奏などを披露しました。9年生はとても感激している様子で、涙を浮かべる様子も見られました。また、手渡された手作りのプレゼントをうれしそうに見つめていました。

企画・立案・進行等、抜群のチームワークで会を盛り上げた生徒会役員の皆さん、ありがとうございます。9年生からしっかりバトンを引き継ぐことができましたね。

(文責：野尻)

第5回みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式 卒業生代表挨拶



日差しが日々やわらかくなり、桜の蕾も色付き始め、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。今日このよき日、私たち21名は、みなみ学園義務教育学校第五回卒業生として、ここを巣立ちます。

今思うと、みなみ学園で過ごした日々は、魔法にかかったかのようにあっという間でした。ぶかぶかの制服に身を包み、桜が舞う中迎えた後期課程開始式。友達はあるのかな、勉強は難しくないかなと、胸の内は不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安は、温かく迎えてくださった先生方や先輩方によって直ぐに吹き飛び、楽しい学校生活を送ることができました。銀世界の中、舞い落ちる雪の華と共に滑ったスキー学習。転んでは起き上がりを繰り返し、最終日にはみんな颯爽と滑るまで上達しました。

8年生になる頃、突然広まり始めたコロナウィルス感染症による休校や分散登校、多くの行事が削減され、我慢我慢の生活となりました。新しい生活様式にも慣れてきた最上級生では、校舎が一体化し、前期課程の児童との生活や、一人一台タブレット端末が導入された学習が当たり前になりました。赤・青・黄の法被を身に纏い、披露したみなみソーラン。今まで後輩と話す機会がない内気な私たちが先頭に立ち、作りあげたソーランを踊りきった後は達成感でいっぱいになりました。九色の虹を背に歌った合唱曲『群青』。休み時間を削って練習に励み、当日は多くの人々の心に染み入る歌声を体育館いっぱいに響かせることができました。コロナウィルス感染防止のため延期や変更を繰り返し実現した修学旅行は、一泊の仙台バス旅行。仙台市内の散策や震災の語り部さんの話を聞きながら進んだ松島遊覧船、大興奮のイルカショーなど、豪華な食事でお腹を満たした二日間は私たちの友情をさらに深めるものとなりました。

このようなたくさんの思い出によって鮮やかに染められた中学校生活というキャンパス。笑って、泣いて、みんなで一步一步歩んだ時間は、忘れることの無いものとなるでしょう。また、一人一人と向き合い、優しく、時には厳しく、私たちを導いてくださった先生方には、生活面・勉強面など多くのことでお世話になりました。本当にありがとうございました。そして、一番近くで私たちを見守り、多くの愛情を注いでくれた家族。たくさん迷惑をかけ、反抗することもありました。それでも常にかけてくれた温かい言葉は、私たちの心の支えとなっていました。いつもは恥ずかしくて言えないけれど、ありがとうございました。最後に、七年生、八年生の皆さん。こんな頼りない私たちを支え、ついてきてくれてありがとう。前期課程の皆さん、たくさん話かけてくれてありがとう。みんなのキラキラした笑顔が大好きです。次は皆さんの番です。皆さんなら、大丈夫です。この先も、多くの先輩方が創り上げてきたみなみ学園を、さらに発展させていってほしいと思います。

最後になりますが、本日お忙しい中、私たちのためにお祝いのことば等をいただいた皆様に感謝を申し上げ、皆様のご健康とみなみ学園のますますのご発展をお祈りし、卒業生代表のあいさつとさせていただきます。



笠間市立みなみ学園義務教育学校第5回卒業生代表

仲野 聖奈